長洲町立長洲小学校　校長便り　No.３

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和４年４月２８日(木)

雑感

暑くなってきましたね。先日、我が家では早くも母がお茶を煎っていました。玄関までお茶の香りが漂います。そして、朝は、新茶として淹れられたお茶を飲んでいます。味はともかくとして、生活の中で季節を感じるひと時でした。

私の両親は二十四節気を大切にしておりまして、節目節目に準備する食べ物や飲み物については必ず準備します。私たち子や孫は、その体験で背景にある歴史や人々の願いを学んできました。だからこそ伝えていかなければならない責任が教師にはあるのかもしれません。

「夏も近づく八十八夜」は、今年は5月2日(月)です。日本茶でちょっと贅沢な時間を過ごしてみては如何でしょう？　コロナ禍で自粛ムードは否めませんが、みんなで心を和ませる何かを探してみませんか？

お便りを頂きました

今週「みんなの居場所」の感想のお便りを頂きました。とても嬉しいですね。読んでくださる方がいらっしゃるんだと思うと、執筆へのモチベーションも上がります。

まずは、４年生の保護者の方からのお便りです。ご紹介します。

「『みんなの居場所』楽しく読ませていただきました。コロナ禍により学校へお伺いする機会も以前より減り、なかなか先生方とも顔を合わせることが少ないせいか、担任の先生以外の先生方が分からないという状態ではありますが、この校長先生のお便りにより、校長先生に親しみを感じさせていただきました。また、次回が楽しみです。『おかげさまで』の言葉は、改めて自分の行いを考えさせられながら読ませていただきました。ありがとうございました。また、イラっとする問題、楽しかったです。答えはたぶん１２!?ではないですか？

読む力、それを理解する力は本当に大事だと思います、読解力はすぐに付くものではありませんので、日頃の積み重ねが大事ですよね。娘には読書の大切さを伝えてはいますが、まだよく分かっていないようです。私も時間があれば…と思いつつも、じっくりと本に向き合う時間がないので、今後娘と一緒に読書の時間を楽しんでいけたら良いなと思っています。そして、『ダメなものはダメ』これについても、我が子にきちんと伝えていきたいと思います。」

次は3年生の保護者の方からです。

「『みんなの居場所』、楽しく拝読させていただいています。校長先生の生い立ちや子供達を思う心がとても伝わってきます。昔は当たり前だったことも今は難しくなっていることも多く、子育てする環境も変化していると実感しています。校長先生の、保護者として同じ目線に立ち子供達を見守ってくださる姿勢に感謝しながら、このお便りを今後も楽しみにしています。」

身の引き締まる思いでお便りを読ませていただきました。楽しみにしていただいていることに嬉しく思いながら、責任の重さを改めて痛感すると共に、一保護者として皆様と情報共有していこうと思いました。この「みんなの居場所」も、私からばかりの発信ではなく、双方向の発信や交流も行うことができればいいですね。今後も多くの話題を提供してまいりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。

シリーズ「自分を語る」＃③

私が物心ついた頃のお話です。当時、我が家には白黒テレビがあったそうです。両親はいわゆる「わさもん(早生者)」で、新しい物にはすぐに飛びつくという習慣があったようでした。

私の年齢はまだまだ3歳くらいでしょうか、両親はそのように言っていました。茶の間で食事が済み、家族団らんの時間を過ごしていた時の事、私はお腹いっぱいになって、テレビを見ながら茶の間でウトウトしていたようでした。いわゆるまどろみの中だったのでしょう。暫くすると、私は突然起き上がって周りを見回していたそうです。何と私はその時、寝ぼけていたのです。両親は笑いながらそれを見ていたようなのですが、その後の私のとんでもない行動に、両親は慌てふためくことになります。

どんな夢を見ていたのか分かりませんが、私はテレビに近づいて行って画面をじっと見ていたようでした。そして数秒間が過ぎた後、私は体をブルッと震わせたそうです。どうやらこれが私のおしっこをしたいというサインだったようです。それを見た両親は慌てたそうです。でも、「まさかねぇ？」という油断があったのでしょう、そのまさかが本当に起きてしまいます。私はおしっこの準備をして、テレビの画面に向かって用を足していたそうです。困ったものです。

私が幼少期を過ごした頃の社会は、社会に活気が溢れていたそうです。私は１９６６年生まれですが、その2年前に東京オリンピックが開催され、日本全体に発展、前進していくというエネルギーに満ち溢れていた時代だったのでしょう。それが良く表現されていたのが、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」でしょうか。子供を育てていくのも、親だけでなく地域住民総出でということが普通に行われていた時代だったようです。

私はそんな時代に生まれて育ちました。５０歳を過ぎ、最近の若者はと口にすることもあり、時代の移り変わりを感じています。社会の流れに乗り、私達は国民のニーズに合わせて自己変革を図り、スキルをアップデートしていかなければならないのですね。でも、それこそが教師の仕事の楽しいところです。常に新しいことに取り組むことができ、自己変革によって時代に即応し、力に変えていくのですから。しかし、学校現場にいると、変わってはいけないものにも気が付きます。いわゆる不易の部分です。例えばあいさつです。地域で生活していくためには、多様な他者と協働していかなければなりません。それに必要なものがあいさつであるのです。更に、相手の心に寄り添うこと、笑顔を絶やさないなど、多くの不易があります。いけね、また話題がそれた!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）